

平成27年度第1回花巻市子ども・子育て会議 会議録

日 時 平成28年3月22日（火）午前10時から午前11時50分まで
場 所 花巻市交流会館 2階 第2会議室
出席委員 伊藤達也委員、鎌倉公順委員、本宮信也委員、柳原賢一委員、玉山敦子委員、
照井義彦委員、佐藤千秋委員、赤坂礼子委員、佐々木繁夫委員、佐藤恵委員、
牛崎恵理子委員、新田光子委員、中村良則委員、鎌田文聰委員、佐藤良介委
員、（15名）
欠席委員 高橋加奈子委員、晴山めぐみ委員、瀬川和子委員、高橋圭子委員
市出席者 佐藤教育長、こども課小田中課長、阿部課長補佐、晴山係長、伊藤主任

辞令交付 佐藤教育長より各委員へ辞令書手交

- 1 開 会 こども課阿部課長補佐
- 2 あいさつ 佐藤教育長

おはようございます。年度末の大変お忙しいなか、本日は遠くから子ども・子育て会議にご出席賜りましてありがとうございます。また日頃より委員の皆様には様々な子ども・子育てまた教育、まちづくり全般に大変お力をいただいております。この度は委員をご就任していただきありがとうございます。ご案内の通りこの会議は国の子ども・子育て支援法の規定に基づき市として設置いたしました会議でございますが、本年度からスタートしました花巻市子ども・子育て支援事業計画「イーハトーブ花巻子育て応援プラン」について進行管理、あるいはたくさんのご意見をいただくといった主旨で設置したものでございます。このイーハトーブ花巻子育て応援プランは少子化や多様化する子育てニーズに対応するため策定され、スタート段階で107事業を盛り込んでいます。平成31年度までを計画期間としており、この推進にあたっては節目節目で実施状況を明らかにするとともに、点検評価しながら必要に応じて改善すべきものというものでございます。本日はイーハトーブ花巻子育て応援プランの実施状況についてご報告申し上げますのが今日の第1の議題でございます。それからもうひとつは特定教育・保育事業の利用定員についてご意見を賜りたいという主旨で設定しました。

この事業計画の柱となるのは3本でございまして、一つは質の高い幼児期の学校教育・保育の総合的な提供。つまり保育教育での質の高いサービス。二つめは保育の量的な拡大、あるいは確保。つまり待機というものを改善していくということと、先ほど申し上げた保育のサービスの向上。三つめが地域の子どもの子育て支援の充実。この三つの柱から皆様のそれぞれのご専門の立場から、あるいは知見を生かしていただきたくさんのご意見を賜ればと存じます。またスタートした段階では見えないところ、今後予想される部分などたくさんのお情報をいただければと思います。ひとつどうぞ今日はよろしくお願いたします。

- 3 委員紹介 小田中課長より委員及び事務局職員等を紹介
- 4 会長及び副会長の選任

事務局一任との発言があり、事務局より会長に中村良則委員、副会長に柳原賢一委員

を提案。各委員の承認により決定。

5 議 事

(1) イーハトープ花卷子育て応援プランの実施状況について

(晴山係長より資料3～5について説明)

(中村会長) イーハトープ花卷子育て応援プランの概要と主な事業。資料4に関しては今年度または新年度実施する主要事業。資料5については現状の数字的な把握。まず資料3のほうで確認しておきたいことはございますか。

[質疑等]

(本宮委員) 資料3の学童クラブの利用見込みについては、今入っている人数をもとに算出したものですね。

(晴山係長) 学童クラブの利用見込みの数ですけども、26年度の利用状況、利用率をもとにしまして今後の全体の児童数に対して26年度の利用率をかけ合わせてつくっております。ただ、新制度に移るまでは概ね10歳未満の利用となっていましたけど、新制度では6年生までと変わってきておりますので、その部分も引き上げたり、全体より利用率が低い学童クラブについては平均まで引き上げた形にして数を見込んでおります。26年度の利用率をただ伸ばしていった数字ではないので、実際とは若干違うとの印象はあると思います。

(本宮委員) 何が言いたいかと申しますと、南城学童クラブを例としますと、平成28年度も5年生以上の児童を受け入れることができない状況で泣く泣く20人以上自主的に入所を辞退していただくという状況もありました。また、待機児童の話をする個々の入所は各学童の判断となっているため具体的なところは市でも把握できていないと思います。各学童と連携を密にして本当の数字を出しながら、6年生まで今の施設で受け入れ可能なのかというのを議論させていただきたいと思います。

(晴山係長) 中長期的な部分で利用見込みがどうなるかという具体的な数字は計画策定の段階では当時の利用見込みなので、現状の具体的部分をお示ししていただければこちらとしてもありがたいですし、具体的な検討をしてみたいと思います。

(佐藤千秋委員) 今の学童クラブに関してですけども、今年の4月に小学校に入学するが学童クラブは定員をオーバーしていて受け入れができないため、お母さんが職場を退職しなければならないというケースもある。計画をみると利用見込みに余裕があるような感じですけども、実際は学区によっても違うと思うがその辺の実態を調査して現実に沿った形での対応をお願いしたい。

(晴山係長) ここに掲載されているのは全体を合計した数字なので、全体でみれば足りているように見えるのかもしれないが、個別にみると利用できない方も実際ありますし、施設的にも受け入れ枠を超えているところもあります。それについては新年度において施設の新設が1か所予定あるほか、必要に応じては施設の増築も具体的に考えて参りたいのでご理解をいただきたい。

(鎌田委員) 病児保育事業のところで27年度は未実施とあるが主な理由は何か。

(晴山係長) 病児保育についてですが、保育園におきましては体調不良児型というも

のはやっております。登園したあとに具合が悪くなったお子さんについては保護者の迎えが来るまでは看護師を配置して対応しております。それとは別に在園児を対象にしたものではなくて、病児、病後児のお子さんを預かる保育施設という部分になります。ここにつきましては市の独自または専用施設もしくはどこかに委託するという形が考えられ、医療機関と連携することが必要となってきます。市内の小児科医とも色々お話していた中ではやっていただけたところがまだ見つかっていないというのが現状。まだはっきりとした部分ではないが、花巻病院の移転新築で病児保育も考えていただけるような状況ではあります。それまでの繋ぎの期間は対応できるのであれば市のほうでも対応したいが、具体的には医療機関が見つかっていない状況です。

(鎌田委員) なんで質問したかという、今年特にインフルエンザが多かった。県内に住む娘家族がインフルエンザになりそちらを利用したときに大変助かった。なので花巻市はどうなのかと思った。

(鎌倉委員) 学童クラブに関して先ほどの佐藤さんと本宮さんの話を聞いて思ったのは各学童の実態の表があるべき。この会議の中で共有するべきところで、全体では人員が確保できているといえども、その地域地域で確保できていないところの差があるので、この会議の資料とすれば学童が5・6年生を受け入れられないとか、受け入れられずに会社を辞めなければならない家庭があるという実態があるのなら早急に個別にわかって対応する取り組みをこの会議の中で意見を交わすべきところ。これは学童にかぎらず保育の待機児童に関しても、市内のどの地域でどのような課題があるかをこの会議で共有できればと思う。

(晴山係長) 学童クラブに限らず現状等の具体的な資料が欲しいというお話でした。今回についてはまとめきれてない部分もあり、簡単な内容だけになりましたけれども、次回の会議については、今年度の実績などをまとめたりしながら、具体的に整理したものをお示ししたい。

(鎌倉委員) 保育園幼稚園の利用見込みの部分でも、新制度に移行していない私学助成の幼稚園の現状も参考資料として載せていただきたい。私学助成を受けているところも経営的にはきつい状況。保育園の方ばかり集まって、幼稚園に来る子どもが少なくなってきた。0歳児からのニーズが高いが、そこを私立幼稚園が認定こども園にはやく移行して受け皿として機能させるように市がどうするかという状況が見えればいかと。

(晴山係長) 今回は新制度に移行した幼稚園だけでしたが、私学助成の幼稚園も子育て支援に関わる場所ですので入所状況なども併せて提示していきたい。後は、新制度に必ず移行してくださいというものではないが、市としては新制度に移行していただくというのが一つの流れですので、移行に向けた支援や情報提供に務めて参りたい。

(照井委員) 1月の会議のときからでも、今度の子育てのことで幼稚園はあまり取り上げられてないが、現在待機児問題が厚労省で取り上げられている。現状としては認定こども園に移った園もあるが、幼稚園児だけだと県内では人数が減っている。それだけ保育園の方に利用が移っており幼稚園経営は本当に厳しい、ただ花巻市では満3歳児前までの子育て支援を特段の御配慮で頂戴しているものですから、現実的に申し

上げると満3歳児からの幼稚園児よりも、子育て支援の途中で満3歳になる人数の方が多いので、まだ花巻はいいが、よその市町村だと幼稚園児が少ないところが全国的に問題なので、花巻の場合は大変ありがたく思っております。3歳以上から幼稚園のみに入る方が少なくなってきた厳しい状況の中に今度の新しい子ども・子育て支援新制度で保育園がさらに入りやすくなったので、幼稚園が厳しくなったのが現状です。

もう一つ、以前から気になっていた部分で、いわゆるグレーゾーンのお子さんについて、そのお子さんが地域子育て支援事業の乳児全戸訪問をなんとか1年（1歳）まで延ばしていただけないか。乳児の段階は動いてませんので、それ以降の立ったり歩いたりするところでこのグレーゾーンに関わる、発達の遅滞が見えてくる。情緒的な部分の育ちとか感情表現、言語に関する問題とかは1歳までに出てくるので、全員とはいかなくても6ヶ月検診などもあるのでグレーゾーンの方に対しては1年間見ていただくと保護者の方もいいし、大きくなってから学習障害になる部分が減ってくるのではないかと。例えば、1歳までのところで一緒にテレビを見て、子どもさんはテレビを見ていて静かだから、お母さんは別のテレビを見てる。家庭でいっしょにいても機能していない、言語的な関わりも少なくなる。この制度では4か月の乳児までだが、花巻市内の子どもの将来像を考えるのであれば1年くらいまでやっていただいた方が後々良い結果になるのではないかと。

（玉山委員）石鳥谷保育園はまだ入所出来る余地があり良いことのように見えるが、資料6の別紙のところを見ていただくと、石鳥谷5園のなかで3施設が定員割れをしている、待機児童がすべて我が園にきていただければいいことなのでしょうが、住居や通勤の問題のほか定員割れをしている中でも0・1・2歳は入れない子もいる。待機児童の課題もあるが、定員割れの施設もあるということを知っていただきたい。花巻市の法人立の保育園さんは定員100%を超えている、東や大迫も定員割れをしている。多くが公立園なので財政面で問題はないと思うが、私達の石鳥谷地域がこういう状況にあるということを皆さんに知っていただきたいなと思います。

（晴山係長）私の分かる範囲の中での説明になりますが、先ず乳児の家庭訪問ですが保健師等が4ヶ月までのお子さんの様子を見るものですが、これは発達の状況を見るためのものではなく健康面が中心となります。やはり発達の遅れを早期に発見対応できれば良いことなので、取り組みを検討していくことは必要。発達の状況も一人一人違いがあるので一概に言えない、またその違いも小さいころには差が大きいので見極めが難しいところもあります。検診に関しては3歳児検診で発達の様子を見て、その後子ども発達相談センターで相談を受けていただいたり、親子教室でトレーニングや対応をしていただいたりがあります。先ほどの保育園の0～2歳児の申込みが増えているところで、こども発達相談センターで巡回のほうもやっております園で気になるお子さんがいる場合、声をかけていただいてセンターから訪問して対応の仕方などアドバイスするというのもやっております。それら機能を使いながら対応していただき、具体的もっとできることがあれば改善に向け検討していきたい。

保育園の入所に関しては、一番は待機の問題が取り上げられますが、それ以外に定員割れを起こしている部分、裏の部分の課題もあると思うのでそれも検討が必要。客

観的には、花巻市は施設の数が多いといわれている、比較的規模の小さい施設が点在している。地域の身近な所にあるという点は良いが、保育士の配置が効率良く行われにくい、また定員割れを起こす要因にもなっているのかと思う。その意味でも保育園の再編も必要と考えている。具体的なお答にはならないが、そう考えております。

(中村会長) 資料3についてまだまだご意見があると思うが資料4、5のほうに移っていきたい。なにかあるか。

(玉山委員) 保護者からの質問でしたが、第3子以降保育料負担軽減事業は31年度まで行ってくれることでよいか。

(晴山係長) 明言はできないが、実はこの事業が出てきたのは国の地方創生、まち・ひと・しごとの創生ということで、それぞれ市町村で計画を作ると国が支援しますということで検討されていまして、さらにその前に人口減少対策ということで市役所内にワーキンググループをつくり検討してきました。その中で経済的な負担の軽減も大事だろう、特に多子世帯の負担軽減で第3子以降の保育料ということで考えました。この第3子以降も先ほどのまち・ひと・しごとの地方創生の計画に載せております。その計画は5年間の計画で位置づけられています。予算の裏付けは何もないままお話していますが5年間は続けられるだろうと考えております。来年度も予算は措置されておりますので28年度も実施します。

(中村会長) 国の予算の範囲内でしかできないことだろうけれども、必要であれば国も認めるだろうと思う。31年度以降は分からないというのはそうだろうが、やりますということでいいのではないのでしょうか。

(晴山係長) 補足させていただきます。地方創生の計画には掲載されているが、この事業は27年度は地方創生の先行的な取り組みに対する先行交付金を受けてやっている事業ですが、28年度は先行交付金の対象とならないため第3子以降の保育料補助は国のお金は入ってこないの、基本的には市の単独事業となります。補助金が切れたから即やめますということにはならないと思いますので、そこについてはご安心いただければと思います。

(伊藤委員) 子育て支援情報提供事業で子育てガイドブックの1200部はどのように、どこで配布されるのか教えていただきたいのと、この内容をホームページ上で閲覧できるのか。

(晴山係長) 初年度の27年度は5000部作りまして、保育園幼稚園等の施設を通じて各家庭にお配りしています。さらには窓口で転入されるお子さんがいる世帯への配布、母子手帳を受け取りにきた出産を控えているお母さんに配布しております。その他、各施設や機関へも配布しています。今後は改訂版ということで基本的に転入される方や新たに母子手帳の交付を受ける方に配っていく予定です。ただ制度改正もあると思うので、本来ならば全家庭に配布できれば良いのですが、限定的な配布を考えております。ホームページへの掲載に関しては確認しますが、掲載がまだの場合は掲載しません(掲載済み)。

(2) 特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用定員について

(晴山係長より資料6について説明)

(中村会長) 具体的には睦保育園が膝乃(かがりの)こども園になるということで、定員を10名増やす計画を立てていて近々認可されるということ。市内全域の状況については次のページにある。なにかご意見あるでしょうか。

[質疑等]

(鎌倉委員) 保育士確保の取り組みについて、なぜ確保が難しいのかという状況と資料4の奨学金活用人材確保支援事業において確保に関してのなにか制約等があるのか。

(晴山係長) 保育士確保の奨学金で対応する事業の担当課は小中学校課になります。先ず今奨学金を借りてる方で4月以降市内の保育園で勤務される場合、公立園は含みませんが民間の保育園で勤務される場合は返還分の半額を補助します、また、これから就学されるという方は返還が始まるときに補助されるという形になります。一旦事業が終了されれば新規の認定はしないかもしれないが、実施期間中に一旦認定されれば返還が続く限りは継続していく。市内で保育士として勤務されれば補助は受けれるが、辞めた場合補助は切れる。市内の保育園に勤務されている間は補助がある。

(鎌倉委員) 市として保育園に対して保育士を確保するための支援はしているのか。

(小田中課長) 市として花巻市内の保育園に勤務してもらいたいと秋頃に各養成学校を訪問しお願いしています。保育士を目指している方はあるが、花巻から何人くらいの学生が行っているのか言えば、意外に少なくてもそもそも資格を取る方が少ないと今年度特に実感しました。北上にも養成学校がありますが、そちらで55人が今春卒業する学生がいて地元就職したいと意向はあるようだが、花巻から通っている学生さんはそのうち2名しかいない状況でした。盛岡大学では158人のうち13人、盛岡医療福祉専門学校では57人のうち4人で地元に戻ってくるだろうと期待している人数が、花巻は34施設あるがその方たちがすべて保育士として勤務しても19人しかいない。その後何回もお願いしながら続けてはいるところです。処遇につきましては、国のほうで処遇改善加算ということで3年続けており成果は上がってきているものと思いますが、確実に保育士の処遇に反映されているかは、まだ確認していないのでこれから調査をしていくこととしております。あとは潜在保育士、資格は持っているが子育て中とか、もし出て働くのならば自分のお子さんも預けないと働けないとかハードルがありまして、なかなか復職による確保にも苦慮しているところです。

(鎌田委員) それに加味して細かく言いますが、正規とか非正規とか採用の条件はあるのか。非正規でも奨学金の補助はあるのか。

(晴山係長) 奨学金の保育士確保事業は雇用形態は問いません。

(中村会長) 資料6の質疑は以上とする。全体を通してなにかご意見ご質問等があるか。

(佐藤千秋委員) 学童クラブの現場からですが、先ほどもありましたグリーゾーンですが、実は学童クラブも発達障害の子がだんだん増えてきて、小学校に入学してから認定される子も多いです。サポート支援員がいれば加算を受けられるが、保育士同様に学童クラブの支援員も足りないのが実態です。サポート支援員もだれでもできるわけでもない、ハローワークにかけても、どの学童にも応募者がいない。実態とし

てグレーゾーンの子を受け入れている学童は少ない。せっかく国で予算の措置があるのに人が見つからないために受け入れることができないというのが花巻市の学童の課題の一つ。それについて教育委員会と一緒に考える手立てはないのか。例えば学校のサポートの非常勤の先生が放課後や長期休業の間にきて、待遇は各学童ですが、連携プレーはできないのか。そうすれば、発達障害やグレーゾーンの子も学童で受け入れることができる。

(中村会長) 子ども子育てプランができた一番の目的は、子どもに関わることは全部一緒にやろうということでした。今の縦割りの枠組みを外すことに意味がある。もう一つは人材がない。だから参加できる人がどこにいるのかを探すための情報交換としてこの会議がある。待機している人は今日困っているので1年後とかではなく早急に行うべき、事務局としても検討していただきたい。

(鎌倉委員) 例えば教職員組合にお願いして退職された先生方に退職後5年間くらい学童でサポートをお願いできるかを協力要請を出すとか連携するとかあってもいいのでは。

(中村会長)

以上で議事を終了する。

6 その他

7 閉 会 阿部課長補佐

以上で平成27年度第1回花巻市子ども・子育て会議の一切を終了する。